



図5 都市規模別平均観察等級の推移（冬期）

巨大都市 人口100万人以上

大都市 人口30万人～100万人未満

※星の等級について

天体を地上で観測した時の見かけの明るさを表した単位。その星自体の明るさを表す絶対等級と区別して、見かけの等級ともいう。等級は数値が1減るごとに約2.5倍明るくなる。図3においては、数値が大きいほど暗い星まで見えることになる。